

清流通信「四万十川物語」

第30章 (H11.9.10)

送信者：高知県四万十川対策室

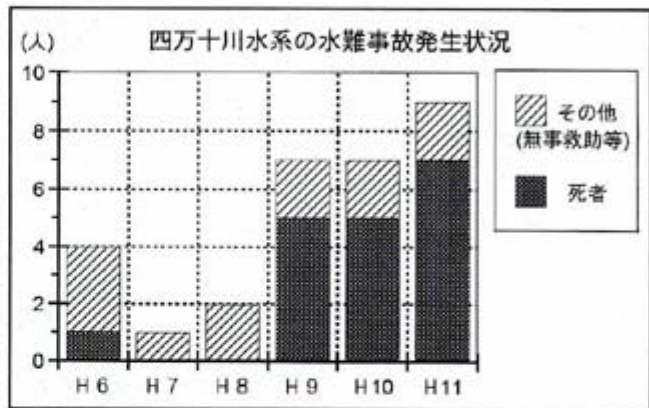
tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

四万十川は泣いている！

～身近過ぎるゆえの悲劇が今年も又～

夏も終わりに近づきました。この時期になると必ず新聞に出る記事が海や山の事故件数です。その中でも特に、神奈川県玄倉川でのキャンプ中の18人が激流に流された事故は、人々の脳裏に生々しい記憶として残っていると思います。人が近づかなければ、いや近づけなければこのような悲劇は起こらないわけで、川と人との関係を改めて考えさせられました。

翻ってわが四万十川です。今年8件の水難事故が発生し、7人が死亡というショッキングな結果になりました。『え！四万十川で人が死ぬ？』と感じるかも知れませんが、昨年一昨年も7件の事故が発生して合計10人が死亡し、地元新聞に最後の清流は「人食い川」とまで書かれてしまいました。もちろん観光客への警鐘として書かれたわけですが、事故が発生するたびに涙を流しているのは四万十川自身であり、是非とも水難事故の絶滅に取り組んでいきたいと思っています。



●高知県警察本部調べ(H11.8.16現在)

なぜ、四万十川で水難事故が次々に発生するのでしょうか。四万十川は時々洪水で怒った顔を見せますが、事故が発生した下流域は、普段は水面も穏やかで大変優しい姿を見せており、水難事故が発生するような川とはとても見えません。

しかし、事故原因として考えられるのは、

- ①全国から多くの方が訪れていること
- ②どこからでも川に近づくことができ、非常に身近な存在であること
- ③見た目には非常に優しい川と感じること

など、四万十川の魅力が逆に災いしているとも考えられます。

さらに、

- ④増水中や癒れた時に泳いでいること
- ⑤対岸に泳ごうとして流されたり深みにはまったりしていること

なども一因と考えられます。

高知県では、せっかく来ていただいた方々が悲劇に遭わないように今後最大限の対応を行います。皆様も無理な行動は絶対避け、四万十川を訪れた方は、地域の方々に危険箇所であるか、増水しているかなどを聞いてください。また、地域の人の注意の声に十分耳を傾けてください。これだけで事故は相当防げるはずです。是非多くの方々に事故発生の実態と注意の呼びかけをお願いします。

四万十川は今日も又、皆様を気持ちよくお迎えするため笑顔で待っています。

書籍のご紹介

「光च्छよるぜよ！ぼくら」(文研出版 横山充男・作 福田岩緒・絵 定価1,300円)

作者の横山充男さんは宿毛市のご出身で、18歳まで中村市で過ごされました。この作品の舞台は1960年代の中村市で、四万十川のほとりで生活する小学生達の心の交流が情緒豊かに描かれています。今の子供達はもちろん、保護者の方にもぜひ読んでいただきたい作品です。

次章(10月10日発信)は、「火振り漁」を予定。